

ニールス・アーベル

理工学部数理科学科
27014656 織田倫明



([http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Niels Henrik Abel.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Niels_Henrik_Abel.jpg)
より画像引用)

略歴

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/ニールス・アーベル> より引用)

1802年8月5日 - ノルウェーのフィンダーに生まれる。

1815年11月 - クリスタニア大学のカテドラル・スクールに入学。

1818年 - 数学教師ホルンボエ(英語版)に影響され、数学に目覚める。

1820年 - 父セレンーゲオルグ・アーベル死去。

1821年7月 - カテドラル・スクール卒業。大学に入学。

1822年6月 - 哲学候補資格が与えられる。

1823年 - 「積分についての論文」発表。

1824年 - 「5次の一般方程式の解法の不可能性を証明する代数方程式に関する論文」を自費出版。「振り子の運動における月の影響についての論文」発表。

1825年9月-1826年2月 - ベルリンに留学

1826年7月-1826年12月 - パリに留学

1827年1月-1827年5月 - ベルリンに留学

1827年5月20日 - ノルウェーに帰国

1827年9月20日 - 「楕円関数に関する研究第1部」発表

1828年5月26日 - 「楕円関数に関する研究第2部」発表。

1828年5月27日 - 「ある一般的な問題の解答」を「天文学報告」に送る。

1829年1月6日 - 「超越関数の中の非常に拡張されたものの一般的な性質に関する論文」完成。

1829年4月6日 - 肺結核により死亡。

1830年 - パリ科学アカデミーがグランプリを贈る

超越関数の中の非常に拡張されたものの一般的な性質に関する論文

(参考: <http://ja.wikipedia.org/wiki/ニールス・アーベル>,
<http://ja.wikipedia.org/wiki/超越関数>)

この論文は「青銅よりも永続する記念碑」と言われ、後代の数学者に500年分の仕事を残してくれたとも言われるほどのものであった

※対数や指数関数は超越関数であり、超越関数という用語は三角関数を表すのに使われることが多く、また、超越関数でない関数を代数関数といい、有理関数や平方根関数がある。

アーベル賞

(参考: <http://ja.wikipedia.org/wiki/アーベル賞>)

アーベルの生誕200年(2002年)を記念して2001年に作られた数学に関する賞
数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞との違い

	アーベル賞	フィールズ賞
実施	1年に1回	4年に1回
賞金	1億円程度	100~200万円程度
年齢	無制限	40歳以下

賞金は数学の賞の中で最高クラス

今のところ日本人の受賞はない(2014年現在)